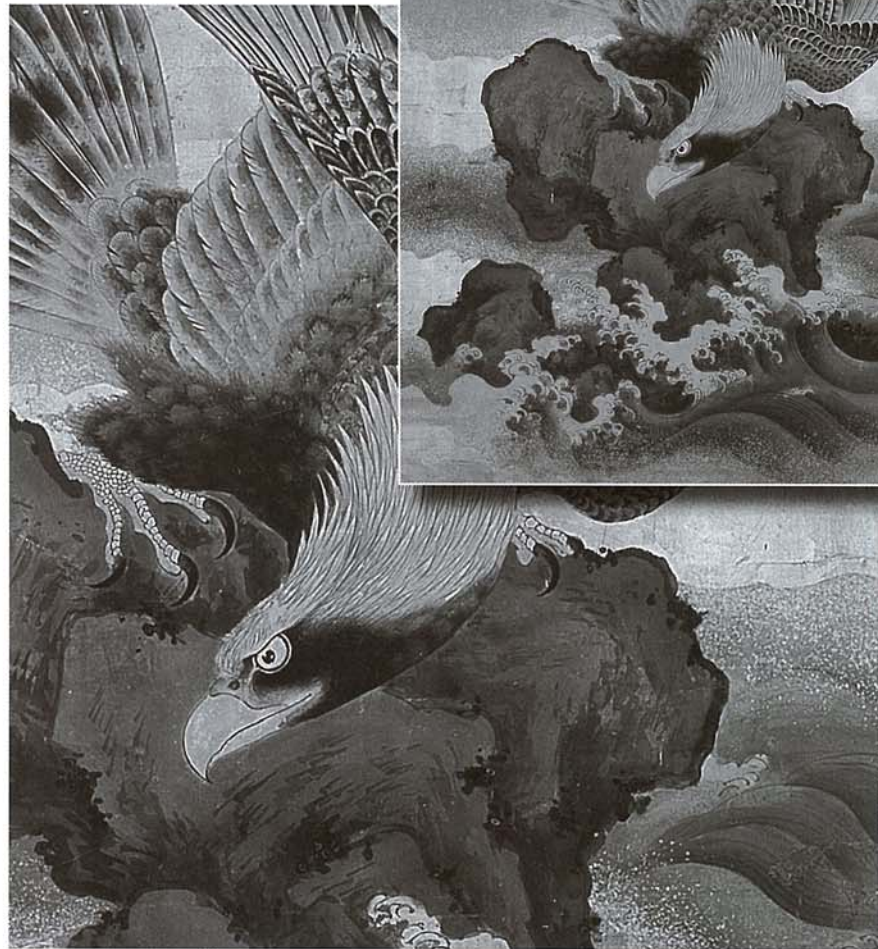


彦根城博物館だより

104

2014.3.1



資料紹介

鷲図わしず

佐竹永海筆

当館蔵

逆巻く波間の岩上の鷲。

作者の佐竹永海（二八〇三〜七四）は、奥州会津出身で江戸で活躍した絵師です。関東画壇の雄の谷文晁に学び、彦根藩井伊家十二代直亮の時に藩の御用絵師に取り立てられ、十三代直弼、十四代直憲の代と、藩の終焉まで御用を続けました。八宗兼学と称された師と同様、多様な画風で描く力量を持ち合わせており、御殿の障壁画から藩主のプライベートコレクションの制作まで、様々な御用をつとめています。

本図の鷲は、伝統的な狩野派の型を踏襲したのですが、岩の柔らかな筆致は紛れもなく文晁から受け継いだもので、多くの永海作品に見られる特徴を示しています。現在は、掛幅の形をとっています。縦約百四十七センチ、横約一一五センチという本紙の寸法や、非常に堅い紙質などから判断して、本来衝立として制作されたものと見られます。

画面いっぱい堂々と鷲と岩を配置し、周囲に金泥と金砂子を惜しげもなく用いる本図は、武家の御殿を荘厳するにふさわしい雄渾な作品と言えるでしょう。

（高木文恵）

テーマ展
3/7(金)～4/8(火)

展示室1

直弼発見!

井伊直弼と相州警衛

弘化四年(一八四七)二月、来航 三年十一月に藩主となったことで、相次ぐ外国船への対策として、江戸 警衛を指揮することとなります。幕府は彦根藩に対して相模国三浦半島の海岸警備を命じました(相州警衛)。彦根藩の相州警衛は、警備地が変更となる嘉永六年(一八五三)十一月までの約七年にわたり続けられました。

警衛を拜命した当時、世継(次期藩主)の身分であった直弼は、嘉永

●ギャラリートーク●
■日時 3月8日(土) 14時
■講師 青木俊郎(当館学芸員)

特別公開

4/11(金)～5/13(火)

展示室1

国宝・彦根屏風



風俗図(彦根屏風) 部分

彦根藩主井伊家に伝来したことから「彦根屏風」の名で広く親しまれている屏風は、近世初期風俗画の傑出した名品として高く評価されています。毛筋の一本一本、絞り文様の一つ一つに至るまで表現する圧倒的に緻密な筆致、金地を背景とする極めて洗練された構図、江戸時代初期の華やかな風俗や時代を反映した静寂な空気など、多様な魅力あふれる彦根屏風の世界を堪能ください。

●ギャラリートーク●

■日時 4月12日(土) 14時
■講師 高木文恵(当館学芸員)

●●常設展示●●

“ほんもの”との出会い
—彦根藩井伊家伝来の大名道具を中心に80点あまりを展示—

展示室2～3、5～6



募集

●平成26年度支援スタッフ募集●
当館では、事業をサポートしていただく支援スタッフを募集しています。さまざまな人と触れ合いながら、一緒に博物館を盛り上げてみませんか。

■活動内容

- ①教育普及事業 小学生対象体験講座の運営
 - スタッフ(体験メニューの準備、指導補助)
 - ②催し物事業 能・狂言講演の運営スタッフ(受付、会場案内、会場・駐車場整理など)
 - ③調査研究事業 古文書解説ボランティア(彦根藩井伊家文書等の古文書解説)
- *①②③を全て兼ねて登録していただくこともできます。



■募集期間 平成26年3月21日(金)まで

■申し込み方法

*当館支援スタッフ係まで電話で応募ください。
*支援スタッフとして活動される方は、4月以降に開催する研修を受講していただきます。

●「古文書のみかた」受講生募集●

古文書解説を基礎から学ぶ教室「古文書のみかた」の受講生を募集します。

■開催日時

5月10日、5月24日、6月7日、6月28日、7月12日、8月2日、9月13日、9月27日の14時～16時(全8回、いずれも土曜日)

■開催場所 当館講堂

■申込方法

往復ハガキ(1人につき1枚)の往信に住所・氏名・電話番号を、返信の宛名面に住所・氏名を明記の上、お申し込み下さい。
■募集期間 平成26年3月31日(月)まで
*当日消印有効

●友の会 会員募集●

彦根城博物館友の会では、平成26年度の新規会員を募集しています。博物館をより身近に感じることのできる友の会に入会し、歴史や文化との出会いを楽しみませんか。

■特典

- ・会員証で、常設展示テーマ展・企画展が観覧できます。(賛助会員の会員証では10名まで)
- ・友の会主催の講演会や現地研修等に参加できます。
- ・友の会ニュースや博物館だより等をお送りします。



■年会費

一般会員 2千円
一般会員(高校生) 1千円
ジュニア会員(小中学生) 5百円
賛助会員 1口 1万円(1口以上)

■入会方法

当館受付にある入会申込書をご利用ください。ご希望の方は郵送もいたしますので、お問い合わせください。
■問い合わせ先
彦根城博物館友の会事務局
(彦根城博物館内)
友の会専用電話
0749-4715787
*毎週水曜日9時から17時まで在館

テーマ展

5/16(金) ~ 6/17(火)

展示室 1

雅な舞 — 井伊家伝来の舞楽装束 —

雅楽は、奈良時代に中国や朝鮮半島から伝来した音楽と、日本古来の音楽とを総合した、日本の伝統音楽です。宮廷や寺社で盛んに行われ、最盛期の平安時代には宮廷文化を華やかに彩り、その一部は今に伝えられています。この雅楽の中で、舞を伴うものを舞楽と言います。曲にあわせて使用する装束や道具の数々は、金や赤、緑などを使った実に鮮

やかなものです。井伊家伝来資料には、大名家には珍しく、雅楽器とともに多数の舞楽装束のコレクションがあります。これまで未紹介だった、この舞楽を彩る装束の数々を、今回初めて公開します。

●ギャラリートーク ●日時 5月17日(土) 14時

講師 茨木恵美(当館学芸員)



舞楽装束 補袖



舞楽面 陵王

テーマ展

6/20(金) ~ 7/22(火)

展示室 1

湖東焼への憧憬 — 湖東焼と近現代のやきもの —

江戸時代の後期に産声を上げ、数々の優品で知られる湖東焼は、短期間で廃窯を迎え、幻のやきものとも呼ばれています。

近現代には、湖東焼を慕って長浜湖東焼やまからずや焼などのやきものが製作されました。本展では、彦根藩の藩窯時代に製作された湖東焼の優品と共に、湖東焼への憧れを映し出す近現代のやきものを紹介します。



まからずや焼 色絵山水図水指



長浜湖東焼 染付古文散茶碗

●ギャラリートーク ●

日時 6月21日(土) 14時
講師 奥田晶子(当館学芸員)

催し

水無月狂言の集い

開催日時・場所

6月29日(日)

18時30分開演(18時開場)

当館能舞台

●演目 大蔵流狂言

解説 茂山 逸平

「雁鴎」 茂山 七五三 ほか

「止動方角」 茂山 正邦 ほか

「腰折」 茂山 逸平 ほか

●城郭博物館3館連携講演会●

天下をにらむ戦略

信長・秀吉・家康

戦国武将達は、平時・軍時を問わず様々な戦略を駆使していました。本講座では、織田信長・豊臣秀吉・徳川家康がとった軍事や統治の戦略を、三館の学芸員が明らかにします。

開催日時・内容・講師

3月15日(土) 13時30分 ~ 16時30分

① 「天下布武への布石」

信長の安土城築城戦略

滋賀県立安土城考古博物館学芸員 大沼芳幸

② 「天下への布石」

秀吉・官兵衛の中国攻め

長浜市長浜城歴史博物館学芸員 森岡榮一

③ 「天下統一への布石」

家康の天下普請戦略と彦根城

彦根城博物館学芸員 青木俊郎

鼎談・天下をにらむ戦略

場所 滋賀県立安土城考古博物館

セミナールーム

●定員 140名(先着順)

●事前申込は不要です。当日、会場へお越しください。

●資料代 300円

●主催 滋賀県ミュージアム活性化推進委員会

チケット

全席指定 5月29日(木) 販売開始

A席(正面席) 3千5百円

B席(脇正面席) 3千円

※開演時刻・演目・出演者等は、都合により、やむなく変更することがございますのでご了承ください。

※チケットは本館受付およびお電話にてお求めいただけます。

(発売初日は、窓口販売9時、電話販売10時)

※未就学児の入場はお断りいたします。

スケジュール

8土 「直弼発見!」
井伊直弼と相州警衛
ギャラリートーク
3月 15土 3館連携講演会
「天下をにらむ戦略」
信長・秀吉・家康

12土 「国宝・彦根屏風」
ギャラリートーク
4月 特別公開
国宝・彦根屏風
4/11~5/13

10土 古文書のみかた①
17土 「雅な舞」
ギャラリートーク
5月 24土 古文書のみかた②
7土 古文書のみかた③

21土 「湖東焼への憧憬」
ギャラリートーク
6月 28土 古文書のみかた④
29日 水無月狂言の集い

6/17~19 展示替により一部休室
5/14・15 展示替により一部休室
4/8~10 展示替により一部休室
3/5・6 展示替により一部休室

*「古文書のみかた」は事前申込制です。



金亀玉鶴



井伊直弼はなぜ「違勅の臣」とされたのか

幕末の大老井伊直弼は、条約調印問題で天皇の勅命に逆らったとして「違勅の臣」と批判されます。幕末から明治時代、現実の政治と関連して天皇に対する「忠臣」を賞賛する風潮の中、天皇に逆らったという負のレッテルは重いものでありました。

しかし実際の直弼の考えや行動は、「違勅」とはかけ離れたものでした。

直弼の大老就任は、天皇の条約勅許と大きく関わっています。アメリカ総領事ハリスの通商条約締結要求に対し、幕府は、世界的な動向を踏まえ、開国やむなしと考えます。幕府から諸大名へ意見が諮問され、大名の合意が形成されてきました。ついで天皇の承認を得ることで、幕府は国内の意見一致を確かなものとしようとしました。そこで老中堀田正睦は、上洛して孝明天皇に条約の勅許を求めましたが、攘夷論者の天皇から勅許を得ることに失敗します。

この堀田の失策に対処するために將軍家定が採ったのが、直弼の大老登用でした。

安政五年（一八五八）四月、直弼は大老に就任すると、すぐに將軍家定と会談して政治方針を決定します。ハリスに条約調印の三か月延期を承認させ、その間に諸大名の意見を集約して、再度天皇へ使者を遣わして勅許を求めるといふものです。

この方針は順調に実行されていきましたが、六月中旬、突然、ハリスが軍艦で神奈川沖まで来て、即時の条約調印を求めました。清（中国）とイギリス・フラ

ンスの戦争が終結したので英仏の艦隊が日本に来るだろう、それまでに調印する方が賢明だと言うのです。

それを受けて、六月十八日、江戸城内で幕閣会議が開かれます。その議論の内容を伝える史料が残っています（写真）。出席者は大老・老中・若年寄や海防担当で、ほとんどの者がハリスの要求どおり即刻条約調印すべきと主張します。それに対し、勅許優先を主張したのは直弼ら二人だけでした。即時調印を主張する者は、天皇にもこの一大事を説明すれば了解されるだろうと述べ、直弼を非難しますが、直弼は、京都へ使者を派遣しないうちに、軍艦の噂を聞いただけで調印しては、武門の義が立たないと反論し、結局、すぐに諸大名の意見を集約して京都へ使者を派遣し、条約調印は引き延ばすという結論となりました。

しかし、ハリスとの交渉に向かう井上清直・岩瀬忠震が立前に「仰せの趣は承知しましたが、是非に及ばない節には調印してもよろしいか」と尋ねたので、直弼が「その節は致し方ないけれども、なるべく引き延ばしに努力するように」と回答しました。この「致し方ない」を井上・岩瀬は調印了解と理解し、延引せずに調印しました。

つまり、直弼はどの幕閣よりも勅許を重視し、それを得るために努力していたことがわかります。ただ、直弼自身は反対だったにせよ、幕府の責任で条約を締結した上は、朝廷・諸大名への説明に尽力しました。一日で朝廷への説明文書を作成して飛脚で届け、追って使者を派遣しようとしています。

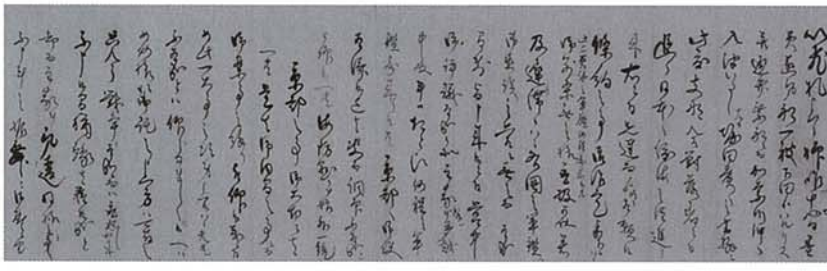
しかし、直弼に反対する勢力が条約調印を「違勅」として、直弼に批判の矛先を向けたのです。その勢力とは、一橋慶喜を將軍跡継ぎにするべきという親藩・外様大名たちで、慶喜実父の徳川齊昭（水戸藩前藩主）、薩摩藩主島津斉彬、福井藩主松平慶永（春嶽）らです。直弼は従来よりの幕政継承を目指す立場

から、彼ら一橋派の考えに批判的でした。直弼からすると、親藩や外様大名は幕政に携わる立場ではないが、彼らには慶喜を將軍とすれば幕政を掌握できる、特に齊昭が將軍実父として権力を握りたいという意図が見て取れるため、到底認めることはできませんでした。

直弼の大老就任後、家定は紀州藩主徳川慶福を跡継ぎに選ぶ意向を大老・老中に伝え、將軍後継者を決定する政治日程が組まれます。諸大名に公表する日が六月二十五日と決まると、一橋派の大名は公表延期をめざし、直弼批判を仕掛けます。幕法を犯した押しかけ登城をしてまで、条約調印を「違勅」と批判しました。直弼が失脚すれば、將軍継嗣発表を延期させ、その間に朝廷に働きかけて慶喜を將軍継嗣にできると考えたのです。一橋派の諸大名は直弼が幕閣内で勅許優先を主張したのを知りながら、「違勅」を批判材料として用いたのです。

現代政治でも、ささいな失策への追及がエスカレーターして、大きな政局の混乱へ発展することがあります。条約調印から百五十年が過ぎた今、対立した片方の主張だけにとられることなく、史実に向き合って直弼の政治を評価すべきではないでしょうか。

（野田浩子）



六月十八日の幕閣会議の様子を伝える長野義言書状（部分）。直弼は「京都へ御使相済候は決して調印相成らず」と発言している。



彦根城博物館

〒522-0061 滋賀県彦根市金亀町1番1号
TEL 0749(22)6100 FAX 0749(22)6520
http://longlife.city.hikone.shiga.jp/museum/

この印刷物は8000部作成し、印刷単価は6円です。

彦根城を世界遺産に
彦根城はユネスコの世界遺産暫定リストに登録されており、世界遺産をめざしています。